



## 5年生が起業を学ぶ

区立杉並第一小学校（阿佐谷北1-5-27）では、5年生が授業の中で、地元企業や地域のコーディネーターの力を借りながら、起業について学んでいます。今回は、区内に支店を持つフルタ製菓の人気商品「セコイヤ」を5本セットにし、オリジナルのパッケージを施し、来年2月3日に阿佐ヶ谷駅や区役所などで販売する予定です。今日25日は、阿佐谷で活動するイラストレーターの宮入俊広さんを講師に、児童が選んだ15点のパッケージデザインに対し、イラストやキャッチコピーの改善点などを話し合いました。

杉並第一小学校の5年生84名が、総合の授業の中で取り組んでいるのは「私たちの街 阿佐ヶ谷を紹介しよう！」というテーマです。阿佐ヶ谷は、七夕まつりやジャズイベントが有名です。そのほかにも、学校に隣接する神明宮やクリスマスイルミネーションで彩られる駅前のメタセコイヤ、中杉通りのケヤキ並木も緑のトンネルとして、地域で愛されています。もちろん、こうした魅力は、そこに住む人々の優しい気持ちの上にあります。

また、もう一つ力を入れていることが起業です。起業は、地域の人から投資をしてもらい、製品をつくり販売し、その利益を還元するもので、過去にもB反と言われる、本来は廃棄される反物を使って小物を作成（製作は区内の作業所に依頼）して、販売してきました。今回は、フルタ製菓の「セコイヤ」というウエハースをチョコレートでコーティングした商品を5本セットにして、阿佐ヶ谷の街を紹介するパッケージを付けて販売することにしました。

しかし、社長も副社長も小学生。やはり、大人からのアドバイスも必要です。そこで、6月には商品の選定やどういった人材が必要かなどについて、野村総研の社員から解説を受け、阿佐ヶ谷駅前のシンボルツリーのメタセコイヤを連想させる「セコイヤ」という商品が選定されました。そして、今日はパッケージで阿佐ヶ谷の魅力をを紹介することを、イラストレーターの宮入さんとともに話し合いました。5年生の3クラスから、それぞれ5点、全部で15点の候補作品の色使いやキャッチコピー、文字の大きさなどに意見が出され、今後、数点に絞り込んでいくことになります。そして、最も重要な会社づくりには、12月上旬に東京証券取引所から講師が訪れ、そのノウハウを学ぶことになっています。

この会社の社長は、神谷有輝さん、副社長には、井上愛理さんと阿部史奈さんが就任しました。今後は、この3人がみんなの意見をまとめ、デザインや販売価格、販売数、そして株券の発行に関することを決めていきます。神谷社長は、「12月初旬に、フルタ製菓に価格交渉へ行くのが最初の仕事になります。みんなの意見をまとめ、2月3日の販売に向けしっかりと務めたい」と抱負を語りました。



写真左から、井上副社長、神谷社長、阿部副社長、宮入さん